

よしだ文化会館だより

No. 86
2005.1.1

ウォークラリー

平成十六年十一月十一日、地域を知る学習活動として、ウォークラリーが開催されました。

小学校一年生から六年生まで三十名が五つのグループに分かれ、吉田文化会館を出発し、竜王山の山頂まで登り、そこで地域にちなんだクイズに答えました。



一つのグループには各学年を一人ずつ含むようになっており、吉田小学校の先生方の指導のもと、みんなが歩調を合わせてゴールを目指しました。

身近なところから始めよう

「人権尊重のまちづくり」のために

昨年十二月には、各地で人権週間にちなんだ行事が催されました。

笠岡市でも、人権問題講演会や人権啓発パネル展の開催、一日人権擁護委員に委嘱された中学生による人権啓発活動など、人権啓発のためのさまざまな催しが行われました。

互いに認め合い、支え合う、人権尊重のまちづくりのために行われているものですが、人権週間の期間中だけでなく、日々の暮らしのなかで、「自分の人権は守られているか」、「他人の人権を侵害していないか」という自他の人権を大切にすることが求められているのではないのでしょうか。

まず、その第一歩として、身近な暮らしのなかの会話を「人権」という視点から振り返ってみることに始めてみませんか。

言葉は、人と人をつなぐ大切なコミュニケーション手段ですが、私たちが、普段何気なく使っている言葉や表現のなかには、人権を無視したものや差別的な意味合いが含まれているものがあります。

よしだ文化会館だより①

例えば、「女のくせに……」とか「あの人の家柄は……」、「どうせお年寄りにはできない」などです。

私たちは、日常生活の場面に応じて、言葉を選び、表現していますが、その基準の中に人権の視点を入れてみてはどうでしょうか。相手がその表現をどう感じているかを考えて、ぬくもりのある家庭・地域・職場・学校などをつくっていきましょう。



○心ない

言葉誰かを 傷つける

○ときどきは

見つめ直そう 自分の心

○お互いの

人権認めて 創ろうよ

大きな愛が あふれる社会

(山鳩子ども会育成会

人権標語より)